

特別講演 1

「心不全薬物の進歩」

富山大学学術研究部医学系 内科学（第二）講座 教授
絹川 弘一郎 先生

最近の心不全薬物治療の進歩は目覚ましい。2010年トルバプタンが使用可能となって以来、約10年間新規薬剤の承認が滞っていた中、昨年のHCN4阻害薬 ivabradine を皮切りに、本年はアンジオテンシンネプリライシン阻害薬 sacubitril-valsartan の承認、さらに SGLT2 阻害薬 dapagliflozin の心不全への適応拡大と続いている。来年には可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬 vericiguat が承認を受ける見込みであり、また本年11月の American Heart Association ではミオシンアクティベーター omecamtiv mecarbil のデータが公表される予定であり、それも期待がもたれるようである。このように新規薬剤が一度に導入されると我々専門医でも使用法に困る局面がある。この講演会では新規薬剤の特徴に触れて紹介するとともに、主として ivabradine の使用法について詳しくお話しする。